未来へ残す2台の車両

札幌と道東方面を結ぶ石勝線が昭和56年に開通した時に誕生したのが、『特急おおぞら』などで活躍した「キハ183系」の車両です。しかしながら、その車両も時代の移り変わりとともにその役目を終えました。

役目を終えた車両について、保存予定の車両は1両もなかったところ、北海道鉄道観光資源研究会の協力により、安平町への保存が実現しました。蒸気機関車からバトンを引き継いで北海道の一時代を走りぬけた「キハ183系」。鉄道文化を伝える存在として、「D51 320」とともに第2の人生を歩んでいきます。

生産者の誇り「農」にふれる

安平町の基幹産業である農業。その魅力を発信する場、生産者と消費者をつなげる場として「農産物直売所ベジステ」が誕生しました。

「ミニトマト美味しかったよ！」「茹でとうきび甘い！」届けられた声は生産者にとって、自分の挑戦に対する消費者の反応を肌で感じとる貴重な場となり、次への挑戦、明日への活力となります。

生産者の「農」への思い、誇りにふれることのできる場所であり、道の駅の看板となっています。

子どもたちの笑い声が響く場所「ポッポらんど」

道の駅と隣接する柏が丘公園に体験型の遊び場が令和3年4月に誕生。愛称は「ポッポらんど」、町民からの公募で選ばれました。遊びの中で子どもは育つ、夏は乗車体験のできる「ミニ蒸気機関車」や身体いっぱい使って遊べる「ふわふわドーム」。冬は地形を利用した「ソリ滑り」や「雪遊び」が待っています。子どもたちの大きな歓声が聞こえてくる道の駅の新たなシンボルとしていつまでも愛される公園を目指します。

安平の魅力をみんなで作る

＼一般社団法人あびら観光協会 西嶋さん／

道の駅は、子どもから大人まで、みんなが楽しむことができる施設です。そして、観光スポットや飲食店を紹介したパンフレット・ポスターの設置や飲食物・特産品の販売など、建物全体が情報発信ステーションとなっています。まずは道の駅に来て情報収集をしていただき、町内を回遊してもらえれば嬉しいです。

また、地元生産者、町内外の事業者の方々と一緒に、魅力あふれるイベントや特産品を考えてきました。多くの方々と関わることで、安平町の発展や可能性を身近に感じていますし、その中心である道の駅に関われることは誇らしく思っています。

また安平町に行きたいと思ってもらえる工夫をこれからもしていきたいです。

訪れた人がワクワクするような場所を目指して

＼生産者協議会 高林さん／

ベジステを他の農産物直売所に負けないために、飽きられない工夫をしたいと考え、安平町以外の農家さんにも参画いただくことになりました。近隣市町村の農家さんも加わることで、多彩な野菜や加工品が四季を通じて提供することができるようになり、通年で楽しむことが出来る素敵な農産物直売所を作ることができました。

特に菜の花の粕肥料を使用した野菜は、ぜひ春に目で楽しんでから秋に舌で楽しんで欲しいですね。また、道内唯一と思われる有機農家の野菜コーナーもお勧めです。

これからも様々な商品が集まり、訪れた人がワクワクするような場所を目指し、メンバー全員で工夫をしながら頑張りますので、ぜひお越しいただければと思います。